

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372400624		
法人名	NPO法人長寿会		
事業所名	ひまわり21長洲 事業所		
所在地	熊本県玉名郡長洲町大字折崎633-5		
自己評価作成日	H30年10月1日	評価結果市町村報告日	平成30年11月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	平成30年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念を基に介護に取り組む事を旨とし研修や自己学習に努めている。法人内の各事業所でお互いに刺激しあい、情報を発信し合って職員間の成長にも繋げたり、職員の成長は利用者により良い介護に繋がり、安心、安全を担保出来ている。当ホームは2ユニットありそれぞれ独立した日常生活を送りながらも、その時期に応じた行事などは2ユニット合同で行うことにより入居者の刺激を受けたり、その後の新しい交流の輪も広がるなど、入居者の日常生活にも良い変化をもたらす効果を得ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

大きな柱とされている法人の4つの理念は、設立以来ケアの基本とされており職員に根付いています。職員間での話し合いも会議録として整備しており、前回の外部評価時の改善点やホームの質の向上に向けた取り組みなども職員全員の意思疎通で行われています。設立以来の地域との関係作りも継続しており、地域の一員としての生活が根付いています。2ユニット間の行き来も多く、行事や日頃の生活の中で活かされています。職員の利用者に対するケアは家庭的で、家族アンケートからもその様子が窺えました。「家族として共に暮らし」「住み慣れた地域で最後まで」の理念に基づくケアの継続に期待し、法人の経営方針が次年度に向けて計画中で有る今後の高齢者ケアの発展に寄与されるものと期待します。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念として大きな柱①～④まであり、毎日の唱和と勉強会などにてスタッフに確認と共有を図っています。	毎日申し送り時に唱和する理念は職員に浸透している。職員入職時にも理念を第一とした研修が行われ、法人全体で理念を基としたケアを実践している。特に利用者の尊厳と権利・地域との関わりは開設以来継続して築かれてきている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の参加、地域の行事に参加や施設行事に参加して頂いている(夏祭りや防災訓練など)	地域の一員として自治会に参加し、総会への参加や地域の困りごと相談受付等、日常的な交流が行われている。地域夏祭り・地域連携の消防訓練等、利用者の関わりも見られる。地域役員との情報交換も活発に行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の総会で施設の紹介や認知症理解と説明をさせて頂いたり「子ども110番の家」物忘れ相談窓口も実施している	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月毎の運営をし、その都度当施設の現状報告をしています。最近の開催では入退去情報や赤崎区の防災訓練の場の提供とその情報交換などを行っています	行政・地域役員・家族代表も参加する運営推進会議では事業所の現況報告だけでなく、それぞれ互いの情報交換の場にも活かされている。今年は地域の消防訓練に事業所として参加する予定で積極的な関りが継続している。	積極的な啓発により、地域との連携が活発に行われている様子が窺えました。会議時には研修等も行われており、情報交換の場ともなるので、ご家族等への参加案内も是非継続してください。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場へは何うと共に情報提供や研修の参加、運営推進会議や研修会を通して顔を合わせる事も多く良好な関係を作っています	運営推進会議への参加もあり事業所の日頃の様子は積極的に伝えている。町では「高齢者見守り情報登録」等の取組みも見られ、事業所としても相互協力・積極的な関係作りに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職場会議や3月毎の拘束虐待委員会にて事例検討をし、各個人がケアの振り返りをしている	職員で構成する拘束虐待委員会での事例検討や会議内容は運営推進会議及び職員会議で報告している。職員会議ではその内容によりそれぞれがケアの振り返りを行っている。現状、身体的拘束は行われていないが、スピーチロック等が見られた際には職員同士都度注意し合う体制が出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束虐待委員会や年間の学習会、社内研修、外部の研修会に参加し虐待の防止に努めている。	/	/

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の年間計画に盛り込みスタッフへ理解を深めている。権利擁護の普及員養成研修を受講し職員へ伝達、必要に応じて家族にも周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には時間をかけて説明している。了承を得ながら説明し、途中で分からない所がないか確認している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情、意見があれば記録し、対策、検討をしている。又、苦情受け付け箱を設置している	基本的に利用者の生活は自由とされており、日々の職員の寄り添い・関りの中で意向・要望の把握を行っている。職員から家族への声かけも行っており、面会・運営推進会議・行事等々、意見を出しやすい機会作りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職場会議の中で学習会をおこなっており意見提案の交換をしている。又、朝礼においても職員の話しを聞きながら話しやすい環境を作りをしている。得た情報は管理会議で話し合っている	毎月全職員参加にてユニット合同行う会議では、法人からの報告・業務改善事項・気になったこと等の報告・情報共有が行われており、意見を出す機会ともされている。毎日申し送りも行われており、日々の情報共有も徹底している。必要に応じ意見・情報は法人で検討されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全体会議において経営報告や処遇改善等職員に周知を図っている。資格取得のバックアップや資格取得時の給与アップも行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修会や事業所別の勉強会の実施、新人研修をしながら計画的に教育をしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や市町村主催の研修は積極的に参加しているその中で交流し情報の		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	声かけを行い利用者の事を考えながら対応し、信頼関係を築いていけるよう努力している。施設での生活に慣れて頂けるよう配慮し、利用者の表情の変化にも注意しケアを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面接時に家族の方に「何かありませんか」と話しやすい雰囲気を作りながら要望悩みを聞き取り安心してもらえるように努めている。職員が誠意ある対応をし、家族に信頼を得られるようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当事業所以外の相談にも応じている。必要であれば当法人内外のサービスの説明を行い、選択肢の幅が広げられるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員にも「おはよう」や「あんたじゃないとダメ」と笑みを見せて言われる事で喜びも増え一緒に暮らしている気持ちにもなっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームで生活していく中で行事等にて家族の支援もあり外出も出来ている。家族とも情報の共有や家族会に参加して頂き、信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人、ボランティアさんの面会を通して、住み慣れた地域の事を話しながら交流の場が広がっている	馴染みの神社参り、地域の夏祭り等、入居者の生活に馴染みのある場所等へそれぞれに外出支援している。家族・友人・ボランティアの訪問も多く、来訪による交流も継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者とのレクリエーションなど交流を図りながら会話も弾み、笑顔も見受けられます。居室で過ごしがちの方にも訪室し談話しながら孤立しないよう関わりを持っている		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族の了解を得られれば病院への面会や通夜や葬儀の場へ出席させて頂いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に尋ねながら希望や意向の確認をし又、本人との会話の中や表情、動作などにて把握できるように努めている	職員は利用者との寄り添いの中で意向を把握している。家族の面会時には職員からも積極的に家族と関わり、利用者の思いの把握を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、ケアマネなど本人との関わりのある方から話を聞き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の記録にて全職員が状態の把握をし残存機能が低下しないように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントを行い介護計画に基づきケアの統一を図っている。毎月のモニタリングによりケアの見直しをしている	毎月のモニタリング・3ヶ月毎の評価には全職員が関わっている。評価時には細かな見直しをし、必要に応じ介護計画に反映させている。継続の場合も年1回は見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の様子、ケアについては生活日誌、月間チェック表に記入し全職員間で共有し、問題点があればミニカンファなどをしながら見直し、改善をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の要望や様々なニーズに対応できるようにその都度カンファレンスを行いながら柔軟な支援が出来るように努めている		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設での行事には地区長、民選委員、老人会会長や近隣の方などに参加して頂いている。又、地域の行事にも参加することで施設の利用者も知って頂いている。交流を通して楽しめるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望される主治医に受診して頂き、情報の提供をしている。主治医の中には往診もあり、報告や相談にて主治医の指示を受けるなど適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しているが、現状では協力医による受診も多い。希望によるその他医療機関の受診は出来るだけ家族の介助も依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状況や状態を看護師に報告と相談をし、受診往診の対応をしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時サマリーなどの情報提供や退院後の状態によっては受け入れ可能であり、再入居に備えは行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に終末期の対応についての希望を聞き書面に記入している。利用者が終末期になってからは再度家族と話し合いをし希望に沿えるようしている主治医と連携し情報の共有し本人を支援していく	希望により対応しており、今年度も看取りを経験した。入居時の意向確認に加え、その時を迎えた際にも医師・家族とも話し合いを重ね、利用者・家族の意向を尊重している。医師・訪問看護との連携体制もあり、事業所全体での支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに沿って対応している。又、応急手当普及員を受講した職員による社内講習を行い実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練をし、消防署に評価、指導を受けています。災害時マニュアルを職員に周知徹底をしている	年2回の防災訓練を継続し、その時期には非常食の点検・補充、警備会社の設備点検も行っている。1・2階毎の避難手順も確立しており、2階用には簡易担架も整備している。毎年のコンセント点検も行っている。	地域の避難訓練も事業所で参加する等、地域全体での安全への高い取組みが窺えました。高波や河川の氾濫は心配ない地域とはいえ、地震や大雨等の自然災害に対する訓練を継続して頂きたいと思えます。

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、自尊心を傷つけないような言葉かけを意識している。理念の唱和にて意識づけを図っている	利用者の尊厳と権利については理念の第一項目に挙げられており、職員にも浸透している。特に入浴・トイレ介助には気をつけており、利用者の意向・好み等それぞれに配慮したケアを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい声かけや雰囲気を作り、利用者がどうしたいのか、選択肢を増やしながらか自己決定出来るよう援助している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や入浴などは本人のペースや体調を考慮している。居室で過ごされる時間を希望の際は希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月毎の訪問カットや近所の美容室外出の支援をしている。毎日の洗面や整髪への支援、季節に合った洋服を利用者と一緒に選んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は食事は外注し、盛りつけは当施設で行っている、食器洗いや食器拭きは一緒にしている。食事の準備時には献立を聞いて頂きながら食事への関心を持って頂けるように心がけている	今年より業者からの配食提供となっている。食事はそばに座って、利用者と献立等の話題を交えて時間を共にしている。週1度パンの日を設けるなどのホームらしさを出すなどの支援も行われている。また家族や近所からの野菜の差し入れで一品追加する等の工夫もある。	業務の関係上昼食は専門職の業務となっていますが、利用者の活動支援や生活感を支援する一環として、配膳準備への関わり合いの工夫に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態を把握し普段と食事量や水分量が少ない時は申し送りをしている。なるべく食べて頂けるように声かけの工夫や栄養補助食品の使用もしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの支援や声かけしをしている。歯ブラシやガーゼ使用等利用者に応じて使い分けている		

グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンやトイレのサインを把握しその人に合った声かけをしながら気持ちよく排泄をして頂いている	昼間はパット等を用いながらも利用者それぞれに応じた声かけやパターンの把握により、できるだけトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレの利用もある。できるだけオムツに頼らない生活を目指している。	昼間、居室のポータブルトイレが利用されていない時間には、置き場所や布を掛ける等、プライバシー配慮や夜間帯との違いについても検討されることを望みます。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医との相談、排泄チェック表を用いて必要時は薬をしようしながら排便コントロールを図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿って午前、午後を選んで頂いている。入浴の嫌いな方には声かけにも工夫しながら支援をしている	希望により毎日・午前午後とも入浴でき、体調を考慮しながら少なくとも週2回以上を基本としている。近年2人介助も必要となることも増えたが、出来るだけ見守りの対応で支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の体操や散歩等の声かけ参加をうながしています。夜間覚醒された方は危険のないように見守りの支援をして無理に寝かせてはけません		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は1冊のファイルに綴じ、いつでも確認できるようにしている。各個人の薬トレイを使用し忘れ防止をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や昔の仕事歴の把握、得意な事などを見つけながら洗濯たたみやカラオケなどの役割や楽しみを支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望や体調にあわせて外出支援をしている。近隣の散歩や季節の花見物などに外出しています	計画による外出も行われていますが、日常的に散歩や職員の買い物時の同行等行われている。地域行事への参加、家族との外出、またユニット間の行き来等もよく見られる。事業所は中庭を囲む設計で日当たりも良く、外気を楽しむ環境が整っていて利用者の憩いの場所となっている。	



グループホームひまわり21長洲

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の所持はなく、家族管理となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの希望があればいつでも使用できる。本人に代わり手紙を書いたりしている。家族が遠方の方は請求書と一緒に情報報告を同封している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光に配慮しており、季節の花や飾りつけを行っている。天候によっては中庭にて日光浴をしながら気分転換を図っている	外からの日光をふんだんに感じることでできる作りの中央に位置するリビングには、季節の花が飾られ彩りを楽しむことができる。中庭への出入りはスロープで容易にでき、「リビングの一部」であるかの様に日光浴を楽しむ様子も伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の相性を把握し、畳コーナーやソファールにお誘い対応している。利用者間の居心地のよい環境整備を行い、又、安全にも気を付けている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ライターやマツチ以外は持ち込みの制限はない。タンスやTVなど様々な物を持ちこまれている。荷物は使い慣れた物を持ち込まれるように声かけし、畳、フローリングの部屋にベッドや布団など本人に応じた居室を心がけている	居室は畳・フローリングがあり、入居者の好みにより布団・ベッドの利用がある。基本的に全て使い慣れた物が持ち込まれており、安全を配慮し、手すりやキャッチアップ等の設置も行われている。全室に温湿度計を備え、心地よい環境作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯たたみや服の整理整頓の声かけなど自分が出来る事を活かした支援をしている。出来ない方にはさりげなく職員が手伝っている		

## 2 目 標 達 成 計 画

ひまわり 2 1 長洲  
作成日 平成 30年 11月 8日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議における家族の参加は家族代表のみの参加しかなかった。	家族代表以外の参加も増やしていきたい	家族の来所時やお便りにて運営推進会議の日程通知をし参加を呼び掛ける	1年
2	43	昼間、居室のPトイレが利用されていない時間も居室に設置のままであった。生活感やプライバシーの配慮不足であった	使用していない時間帯は取り除き生活感やプライバシーの配慮を行う	日中はベランダに置くことで日光消毒にもなり、臭い防止にもなる	外部評価の日より実行
3	40	片付けは一緒に行っているが配膳準備はスタッフが行う事が多い。活動支援や生活感の支援を増やす工夫必要	食事の場面での活動支援を増やす	配膳前の台拭きやお茶くみ、おかずのつぎわけをスタッフと一緒にやる。	1週間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。